



子どもの自己有用感を高める方法とは？

自己有用感と自尊感情の特徴の違いについては、何となく分かっていただけだと思いますが、「へば、何とせば自己有用感って高まるなよ？」という声が聞こえてきそうです。そこで、今回はいよいよ具体的な方法について、いくつかのポイントを挙げてみます。

子どもに関心があることを示しましょう

自己有用感を育てるためには、他人からの評価が大切なので周囲の大人が自分に対して無関心だと思つと自己有用感をもてなくなってしまうます。まず、親がいつも自分を見ているということを知ってもらふ必要があります。

子どもに達成感が得られる機会を与えましょう

家庭の中でのお手伝いや弟・妹のお世話、家の周囲のごみ拾いなど、ちょっとしたことで構わないので、達成感を味わえる機会を与えてください。やり遂げたら「ありがとう」「よく頑張ったね」と感謝やねぎらいの気持ちを伝えると効果的です。

子どもなりに工夫したことや努力したことを認めてあげましょう

大人目線で結果を評価するのではなく、子どもがどうがんばったのかプロセスについて評価してあげてください。そのためには、何かを成し遂げる過程で、子どもが子どもなりに努力したことや工夫した点に目を向けることが大切です。例え失敗しても、そこを認めてもらえると「次は、成功するようにがんばろう。」と思えるはずで。

人と交流できる場に積極的に参加させましょう

他人から評価されるためには、いろいろな人と交流することが大事です。普段一緒に暮らしている家族以外の人と触れ合うことで、子どもが人のために何かができる機会を増やすことができます。特に様々な年齢の人が集まる場では、「年上から優しくされる」「年下を思いやる」などの体験を重ねることで、人との接し方が自然と分かるようになります。

「褒める」のではなく「認める」ことが大事！

子どもを褒める際は、主語は子ども（あなた：you）ではなく、お父さんやお母さん（私：I）となるように意識するといいいです。例えば、子どもがお手伝いをしてくれた場合、「お手伝いをしてくれて『あなたは』えらいね。」ではなく、「お手伝いをしてくれて、『お母さんは』うれしい。」と自分を主語にすることで、子どもはお母さんに認められたと感じることが出来ます。

さあ、今日から褒め方を工夫して、子どもの自己有用感を伸ばしましょう。

「ぽけっとさん よろしく！」の会



今年の「ぽけっと」の皆さんは8名です。よろしくお願いたします。



1年「がっこうだってどきどきしてる」



2年「3びきのかわいいオオカミ」



3・4年「はるのゆきだるま」



5・6年「ぼくの兄ちゃん」



「すこやか なかよしの会」



6年に案内されて1年生が入場



それぞれの「すこやかグループ」で自己紹介をしました



1年生には自己紹介カードを配ります



力を合わせてボール運びリレー



赤組・白組を決める抽選会